

もりのかせ Vol.10



森を感じる情報誌——Green Page Akita

緑の募金で
ふせごう地球温暖化



公益社団法人 秋田県緑化推進委員会

〈CONTENTS〉特集●七座山 森の名手・名人を訪ねる／2 緑育REPORT／4 市町村の緑化推進委員会を訪ねて／6
GREEN PAGE AKITA／8 Photographこの一枚／10 あきた・緑化の足跡／11 インフォメーション／12

別称「七倉山」とも書かれ、七座の峰々がほぼ直線上に連なる七座山。奇岩、巨岩、天然秋田杉の美林などがみられるほか、展望台からは眼下に蛇行する米代川と藤里駒ヶ岳や森吉山、男鹿半島など360度の眺望が楽しめます。

特集

七座山

なな くら さん

「権現様のすぐ上方にある蜂の巣状の穴の岩壁

年輪を感じさせる 安心・安全・卓越したプロの技

チェンソー技術者

高橋 栄一氏

「森の名手・名人百人」の認定・顕彰について

公益社団法人国土緑化推進機構では、平成十四年度から、新たな国土緑化運動の一環として、森を守り、育て、その恵みを活かして持続的に循環していくことの重要性を社会に訴えるとともに、国民の森づくりへの参画を促す運動として「もりのくに」に「ほん」運動を展開しており、すぐれた技を極め、他の技術・技能者等の模範となっている達人を、「森の名手・名人」として認定・顕彰してきました。



受け口から追い口作り等、一連の作業動作が実にスムーズだ。



枝の張り方、幹の曲がり方、風の向き等、1本1本確認して伐る。



伐倒後、イメージ通りに伐れたか切株を確認する高橋さん。



狙い通りの方向へ倒れていく木

近年林業の現場では、急速に機械化が進んでいます。高性能林業機械の普及で人間の役割はオペレーターが主となっています。そんな中で、今でも経験と技術が物をいう分野がチェンソーによる伐倒です。

索道技師から伐倒技術者へ

高橋栄一さんは周囲を山に囲まれた現湯沢市皆瀬で生まれました。仕事といえば炭焼きか林業が当たり前の環境で育ち、最初に就職した商店も山で木を伐って搬出する素材生産業をしていました。

当時、林道が通っていない高所や急斜面では索道(架線)を使って木をワイヤーで吊し、車が入れるところまで降ろしていました。高橋さんもこの資格をとって、架線集材技師として活躍していました。

ところが勤めていた所が倒産してしまい、昭和五十九年に北日本索道に移りました。初めはそれでも架線集材技師をしていたのですが、伐採の現場が人手不

足になり、チェンソーを扱うようになりました。

それから約二十年、先輩の技を学び、経験と試行錯誤を重ねた結果、伐採のスペシャリストとして誰もが認める存在となりました。現在も第一線の現場で活躍する一方、技術指導員として後継者の育成にも励んでいます。

木を伐るという技術

高橋さんによれば、伐採で大切なことは、第一に安全、そして二番目に木を割らないことだそうです。

例えば二つひとつの作業では「上よし、周りよし、待避場所よし、伐倒方向よし」と声を出し、指さし確認をします。高橋さんほどのベテランでも、安全確保を絶対に疎かにしない姿勢が見て取れます。

作業を見学すると、高橋さんは実にやすやすと木を伐っているように見えます。チェンソーが木に吸い込まれていくように、明らかに伐るスピードが違いま

す。高橋さんによればチェンソーの刃を研ぐ「目立て」がとても重要で、一日に何度も行うそうです。

ただそれだけではなく、どう伐ればよいかの判断が早いこともありそうです。木は同じ樹種であっても一本一本違いがあります。根や枝の張り方、幹の曲がり方、そればかりかその日の風の向きや強さまでも考慮して伐るのだといいます。

樹木には針葉樹と広葉樹があります。広葉樹は木の重心が偏っていることが多く、特に大径木は伐倒が難しいとされています。高橋さんはこれを的確な判断と鮮やかな技術で、狙った方向に倒すことができる

のですが、その技術と作業の一部始終を紹介した業界誌の特集「難しい木の伐採スペシャリスト」として高い評価を得ました。

山の環境を守る役目

伐採後の現場がきれいであることも気づきました。林業の現場では、枝や梢、小径木などはそのまま放置されるのが当たり前だったそうです。

最近になって、バイオマス発電の燃料になることから他の現場でも端材を残さないようになってきたそうですが、高橋さんの会社では、ずっと以前からこうした林地残材を残さないように徹底して指導されてきたそうです。

「山林の環境を守るのも林業の大切な役目なのだから、伐った木を残さず活用するのが当たり前。毎日朝礼で社長に言われて、すっかり身に染み付いてしまっただ」と高橋さんは笑っていましたが、「山の恵みで暮らす者が、山を大切にしないでどうする」――二十年間木を伐り続けてきたスペシャリストの言葉には重みがありました。



高橋 栄一さん

昭和27(1952)年皆瀬村(現湯沢市皆瀬)生まれ。昭和59(1984)年に北日本索道(株)に入社。当初は架線集材技師をしていたが、その後伐採作業に従事して約20年。業界が認める伐採のスペシャリストとして活躍中。

〒012-0183 秋田県湯沢市皆瀬字谷地5
TEL 0183-47-5295

緑とともに育つ・育てる

《緑育REPORT》

能代市立常盤中学校

美しい自然に恵まれた秋田県では、古くから学校林等を中心とした森林環境教育が盛んです。緑にふれることによって、子どもたちの環境への理解を深めるとともに、豊かな人間性を育む……そんなすばらしい教育活動の中から、今回は能代市立常盤中学校を紹介します。

常盤かがやき隊活動の総まとめ

ところが、この常盤中学校は生徒数の減少により来春に東雲（しのめ）中学校と統合し、平成三十年度限りで閉校することになったのです。

常盤中の生徒たちは、小学生の頃から学校林活動に親しんできました（常盤中は小中併設校）。最後の年度に当たって、生徒たちにもっと違った視点で森林学習を行い、自分たちの学校林がどんな意味を持っていたのかに気づいてもらおう……そんな思いでこのプラザクリプトンでの森林環境学習が行われたのです。

常盤中学校が「緑育レポート」に登場するのは、これが二回目となります。最初は「もりのかぜ」Vol.6（平成二十六年）で、学校林活動を紹介しました。今回は、秋田市の森林学習交流館プラザクリプトンでの森林環境学習取材しました。

閉校となる常盤中学校

今年六月、福島県で行われた第六十九

回全国植樹祭は、天皇后両陛下にとつての最後の植樹祭として話題になりました。常盤中学校は、平成二十九年度の全日本学校関係緑化コンクール（学校林等活動の部）で準特選となり、表彰されました。同コンクールで常盤中は、これまで何度も特選や準特選に選ばれ、優れた学校林活動を行う学校として全国に知られてきました。



歴史ある学校林は立派な秋田杉が林立する



森林インストラクターの案内でいつもと違う視点でプラザクリプトン学習の森での森林学習

三つのコースで学習

クリプトンでは三つのコースが用意され、各学年が交替で学習しました。

「学習の森」での森林散策では、インストラクターの方々の案内で、林内の動植物などの解説を受けながらコースを一周します。途中にはクイズ（マツクイムシを運ぶ昆虫はカブトムシ？）があったり、クルミやサクラランボの実、触ると危険なウルシ、モグラの死骸など、思いがけない出会いがたくさんありました。生徒たちの質問や感想にはクマに関するものが多く、

彼らも身近な問題として捉えていることが感じられました。

秋田林業大学の実習見学では、高性能林業機械（二つ以上の作業ができる林業機械）の操作を見学しました。女性を含む林業大学の研修生たちが大きな機械で木を掴みあげたり、運んだりする現場は迫力いっぱい、機械化された最新の林業の姿に驚いたようでした。解説の方から「自分の家で山林を持っている人はいますか？」と聞かれると数人が手をあげ、また、生徒からは林業の収入に関する質問が出るなど、林業との距離の近さが



迫力ある林業機械の働きに目を見張る生徒達



林大生によるフォワーダの実習風景



頼めます。常盤中が学校林活動に熱心である背景が垣間見えた気がします。もう一つのコースはクラフト体験です。木の枝や実、貝殻、ドライフラワーなど、自然の中から集められた様々な材料を自由に使って、自分だけの作品を創り出しました。木の土台に接着剤で材料を固定していくのですが、大きな部材をどんとん積み上げて巨大なオブジェを創る男子や、色とりどりの小さな材料をきれいに貼り付けていく女子など、それぞれの個性がにじみ出ていました。できあがったすべての作品は、九月の

常中祭（文化祭）で展示されました。



豊かな自然の恵みを思わせる作品（写真上）、森の動物たちの囁きが聞こえてきそうな作品（写真右）

木と自然に育まれた中学校生活

最後の文化祭で森林学習の思い出を前にした時、生徒たちはどんなことを想うのでしょうか。きっと秋田杉をふんだんに使った木の校舎や、地域の人たち「常盤ときめき隊」とともに活動した学校林など、木と自然に恵まれた中学校生活がどんなにすばらしいものだったかに気づいてくれることでしょう。

SERIES

市町村の緑化推進委員会を訪ねて

第4回 大館市国土緑化推進委員会

県内各市町村の緑化推進委員会は、(公社)秋田県緑化推進委員会の正会員として、ともに協力して地域の皆さんに緑の募金をお願いし、それをもとに生活環境の緑化、森林ボランティア及び緑の少年団等の育成等に取り組んでいます。シリーズでその活動をご紹介します。



「緑の募金」を受付後、苗の整理券を配布

大人気のプレゼント会

大館市国土緑化推進委員会の主な活動は、緑の募金活動のほか、緑化思想の啓発、病害虫の防除、各種緑化関連事業への協賛、学校緑化事業の実施など多岐にわたりますが、中でも市民に親しまれ、人気となっているのが「みどりのプレゼント会」の実施です。

これは、桜の名所として知られる桂城公園内にある市民体育館前で行われ、緑化推進の一環として先着五百人に苗木をプレゼントする催しです。

今年四月二十八日に行われましたが、受付開始の九時前から大勢の市民が集まり、整理券が配布されるほど。毎年さまざまな樹種の苗木が配られてきましたが、二三年はとも評価がよかったブルーベリーが連続して選ばれています。もちろん街頭募金も同時に行われ、多



「みどりのプレゼント会」にはこんなに大勢の市民が集まる



ブルーベリーの苗は大好評

市民の憩いの森を創る

大館市の緑化推進委員会ができたのは昭和三十二年です。同委員会は翌年、市内の岩神貯水池の周囲にソメイヨシノを植樹しました。これがきっかけとなり、市制二十周年記念植樹などの整備が続けられ、同地は「岩神ふれあいの森」として桜の名所となり、また自然観察のフィールドなど、市民の憩いの森となりました。



市民の憩いの森「岩神ふれあいの森」

市政七十周年に向けて

大館市では平成三十三年度に市政七十周年を迎え、同時に大館市役所の新庁舎が完成する予定です。緑化推進委員会でもこれに合わせた記念行事を計画しており、事業資金の積立を行っています。

事業内容はまだ決まっていませんが、岩神ふれあいの森の植樹のように、将来にわたって大館市民に愛される事業となるよう検討を続けていこうとしています。

美林と秋田犬の街・大館

大館市国土緑化推進委員会の事務局は、大館市役所産業部農林課内に置かれています。同課が入っている建物はちょうど秋田犬会館(秋田犬博物館)のお隣です。

ピョンチャンオリンピック・フィギュアスケートの金メダリスト、ザギトワ選手に秋田犬の仔犬が贈られたことをきっかけに、秋田犬が大ブームとなっています。その影響で今、大館市には国内だけでなく、海外からも多くの観光客が訪れています。お客さまに大館市が緑の豊かな、花の美しい街だと思っただけなら、大館市国土緑化推進委員会では、市民の皆さんと協力してこれからも緑化に努めていきたいとのことでした。

こうした緑もあって、緑化推進委員会では現在も岩神ふれあいの森でテングス病の除去や樹木医による診断などの森林整備事業を継続しています。



テングス病

市民生活に密着した情報提供

同委員会では、国土緑化の啓蒙活動にも積極的に取り組んでいます。毎年みどりの月間に合わせて、独自にチラシを作成して全戸配布しているのですが、このチラシで緑化に関連した知識が得られるよう工夫をしています。

今年のチラシでは、松くい虫被害防止のため、発見したら情報を提供していただけるよう呼びかけていますが、同時に松くい虫被害の見分け方をイラスト付きでとても分かりやすく紹介しています。



全戸配布しているチラシ

一方、新しい事業では今年度「大館曲げわっぱ」百五十年の森育成事業への協賛を始めました。これは大館名物の曲げわっぱの原材料を将来的に確保しようという試みで、



今年六月に山瀬ダム近くで行われた地元小学生によるスギ苗の植栽に協力し、苗の提供(三千本のうち半分)を実施しました。



地元小学生によるスギ苗の植栽

また、アメリカシロヒトリの被害防止を呼びかけ、その方法を紹介するだけでなく、高枝切り鋏や小型噴霧器、町内単位であれば動力噴霧器を貸し出すことも知らせています。自治体ではなく、緑化推進委員会がこのような貸し出しをしているのはとても珍しいケースです。

このように市民生活に寄り添った、実際に役に立つ情報提供を行っているのは、大館市の緑化推進委員会の大きな特徴だといえます。

北秋田市

縄文の美を堪能

国指定史跡 伊勢堂岱遺跡

日本の物作りの源流とも言われる「縄文の造形」。ここ北秋田市の伊勢堂岱遺跡は、世界文化遺産の新たな候補「北海道・北東北の縄文遺跡群」の中に含まれており、近年の「縄文ブーム」到来と共に注目が高まっています。縄文土器の際立つ独創性、優れた造形美を伊勢堂岱縄文館で堪能してみましょう。



伊勢堂岱遺跡は秋田内陸縦貫鉄道「小ヶ田駅」の南側台地にある縄文時代後期の祭祀遺跡です。複数の大規模環状列石を含む大規模な葬祭場として知られます。列石の内外には多数の墓が営まれ、キノコ形土製品や朱塗りの土器、鐸形土製品などが出土しました。

COLUMN

キノコ形土製品

キノコ形土製品は縄文時代中期の中頃から後期前半までの限られた時期に東北地方から北海道にかけて分布するようになり、福島県域でのみ後晩期まで確認されています。様々な自然の恵みの中で、なぜキノコが選ばれたのか、伊勢堂岱ではどのキノコをモデルにしたのか、興味深いところです。



豊富な出土品展示。縄文ファンにはたまらない

傘や柄など写実的表現▶



伊勢堂岱は大規模な環状列石が4箇所もある珍しい遺跡



縄文館内部



伊勢堂岱縄文館 DATA



北秋田市脇神字伊勢堂岱5-1外
■秋田内陸縦貫鉄道「小ヶ田駅」より徒歩5分
■開館時間/9:00~17:00
■休館日/毎週月曜日(月曜日が祝日の場合、火曜日)・年末年始(12月29日~1月3日)
■問合/TEL 0186-62-6618 (北秋田市教育委員会生涯学習課文化係)

《足をのびして》

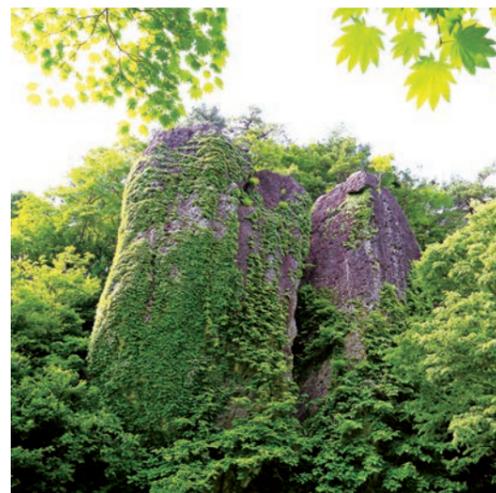
伊勢堂岱温泉「縄文の湯」天然温泉・かけ流しの湯でリフレッシュ。



北秋田市脇神字平崎川戸沼86-2



能代市



夫婦岩

七座山と米代川をはさんだ対岸に位置するきみまち阪県立自然公園。明治14年、東北巡幸の途中、明治天皇は、夏の長旅を気遣う皇后からの便りを受けました。この一帯の風景の美しさと合わせて感動され、「後后殿」と名付けられたのです。まさに恋文のような手紙であったことに因んで、公園内には恋文神社や恋文ポストなどが設置されています。きみまち阪公園で象徴的なのが巨大な岩です。桜や紅葉の木々が四季折々、巨大岩を彩り、美しい風景をみせます。この岩はゼオライト(緑色凝灰岩)で、鉱物資源としての採掘場がニツ井町切石にあります。

きみまち阪県立自然公園

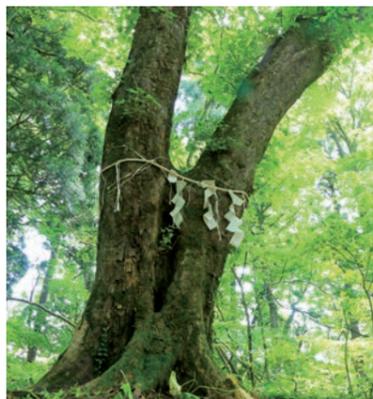


きみ恋神社
ハート型の絵馬を奉納する、恋の神様。パワースポットとして人気です。



屏風岩(左上)と奇岩(右下)が日本庭園を思わせる風景をつくる

風光明媚な景色に浸る



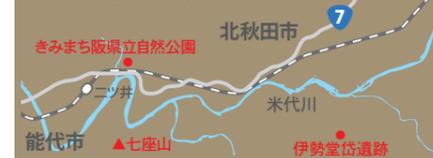
天神工房
木工教室、カヌー製作指導を行っているほか、5月~10月は七座山の麓の米代川でカヌー体験を開催しています。TEL 0185-88-8815



七座神社
蝦夷討伐の安倍比羅夫の伝承があり、受験の神として知られています。日本一のクロビイタヤなど数多くの古木、巨木があります。



米代川に沿って 能代市《きみまち阪周辺》 ~北秋田市《伊勢堂岱遺跡》 を巡る旅



雄大に流れる米代川に沿って
風光明媚な自然に遊び、
「縄文の文化」を訪ねる旅



岩壁が続く独特の風景



きみ恋カフェ
公園第一広場内にあり、ハートのお皿のカレーやコーヒーが人気です。
■営業時間/11:00~14:30
■営業日/4月~11月中旬の土・日・祝
■TEL 0185-75-2724



道の駅ふたつ
七座山、米代川、きみまち阪を望む立地に平成30年7月にオープン。産直・物販コーナー、レストラン、歴史・民俗資料コーナーなど設備が充実。
■TEL 0185-74-5118



おすすめ 日帰りプラン
町内会・老人クラブ・各種会合などにおすすめ
お料理 **3,000円** (税込)

ご宿泊 1泊2食付 **9,330円** (税込)
泉質・効能 アルカリ性単純温泉 pH9.4(強アルカリ性) 慢性疲労・腰痛・神経痛・坐骨神経痛・筋肉痛・高血圧症・動脈硬化症ほか

入湯料サービス 送迎バスのご手配
カラオケ歌い放題 お料理4,000円(税込)以上をご利用の場合、お一人様につき、お鍋子1本サービス

日帰入浴 宿泊 宴会 お食事 プール
西木温泉 ふれあいプラザ **クリオン** パチクリ君
〒014-0515 北秋田市西木町門屋字屋敷田83-2
http://www.kurion.co.jp Tel.0187-47-2010

あきた
緑化の足跡



平成13年5月18日
第52回秋田県植樹祭開催地 — 田代町スポーツ公園《現大館市》

旧田代町岩瀬田代町スポーツ公園（現大館市）に於いて、第52回秋田県植樹祭が開催されました。

参加者は寺田典城知事、吉田光明田代町長他、1,500名です。植樹祭のメインテーマは「未来までつづけ 緑の新世紀」。

式典ではキジ20羽が田代町の緑の少年団によって記念放鳥されました。

田代町の気候風土に合わせて植樹された樹種はブナ、ミズナラ、ヤマモミジ等1,900本。他にラベンダーなどが植栽されました。

小高い丘までいっばいに植栽された木々は現在立派に成長し市民の憩いの場、トレッキングや散歩コースとして親しまれ、アドベンチャー広場などスポーツ公園として管理されております。植栽地入口には記念標柱（石碑）「みどりの町宣言」があります。

植栽地周辺の体育館、テニスコート、野球場、アドベンチャー広場は多くのスポーツ愛好者で賑わいます。

エリアの中にはたしる温泉ユウプラがあり、同温泉ではオートキャンプ場の運営もしております。スポーツ、キャンプ、温泉と気軽にリフレッシュのひとときはいかがですか。



スポーツや森林浴を楽しめるエリア

自然観察林・散策コース

- かもしかコース（全長約1,200m）
- きつねコース（全長約1,000m）
- うさぎコース（全長約700m）



公園内には自然観察林・散策コースが設定されている

Photograph
この一枚

能代市二ツ井町・七座山山麓の銀杏山神社には秋田県指定天然記念物（昭和三十年）のイチヨウが三本立っています。拝殿左側の参道を行くと、乳柱のいちようが、長さ3mを超す巨大な乳状下垂（気根）があり、樹液を垂らしたというところから、乳の出が悪い婦人の信仰を集めました。藩主佐竹侯の奥方も祈願して願いがかなったことから佐竹藩の家紋の使用が許されたという事です。樹齢六百年、高さ約二十八m、幹周約八・四mの巨木です。

このイチヨウの程近くには幹周約五mの二本のイチヨウが連立しており、手をつないだように太い枝でつながっているのが「連理のイチヨウ」と呼ばれています。この二本の周りを、息を止め八の字に三周すると願いがかなうと言われています。銀杏山神社の由緒は白鳳九年（六五八年）に安倍比羅夫がこの地の蝦夷征伐に赴いた際、戦勝を祈願して建立したというものです。建立の際に植えられたイチヨウがこれらの大イチヨウになったと伝えられています。



歴史ある銀杏山神社

銀杏山神社のイチヨウ
【能代市二ツ井】



乳柱のいちよう



連理のいちよう

樹木たちの声に
耳をかたむけてみませんか。

公益社団法人秋田県緑化推進委員会が実施した調査をもとに、秋田県内の誰でも観察できる巨樹・古木277件を厳選しました。樹木の写真・データ・地図に、由来などを紹介するやさしい解説を添えたガイドブックです。

秋田の巨樹・古木

編集発行 公益社団法人 秋田県緑化推進委員会

定価 1,543円（税込）おもめは最寄りの書店、または秋田文化出版（TEL.018-864-3322）



数百年の歳月を越えて



もりのかぜ・ねっと

緑の募金大使「森っち」

INFORMATION



緑の募金
シンボルマーク

県緑化推進委員会の主な事業

「緑の募金」運動の推進 ~緑の募金運動を広く展開し、それを主な原資として次のような事業を推進しています。~

●地域緑化活動の推進

市町村等が行う緑化イベントへの支援

●緑化思想の啓発

チラシ、看板、キャンペーン、機関誌発行、緑化関係表彰

●県民参加の森づくり推進

森林祭等開催、市民グループ森づくり活動支援

●森林ボランティア育成

ボランティア活動支援、リーダー養成

●緑の少年団等育成

交流集会、学校緑化コンクール、学校緑化活動支援、子供木づかい体験

●名木・古木等の保護

診断、調査の支援

●国土緑化運動

国土緑化推進機構連携事業、緑と水の森林ファンド活用事業

※秋田県緑化推進委員会は、国土緑化推進機構・各都道府県緑化推進委員会と連携し、緑の募金による東日本大震災・熊本地震被災地のみどりの再生支援を行っています。

ダイドードリンコ(株)では、環境貢献として飲料自動販売機による「緑の募金」活動に協力しております。

「緑の募金自販機設置」のお願い

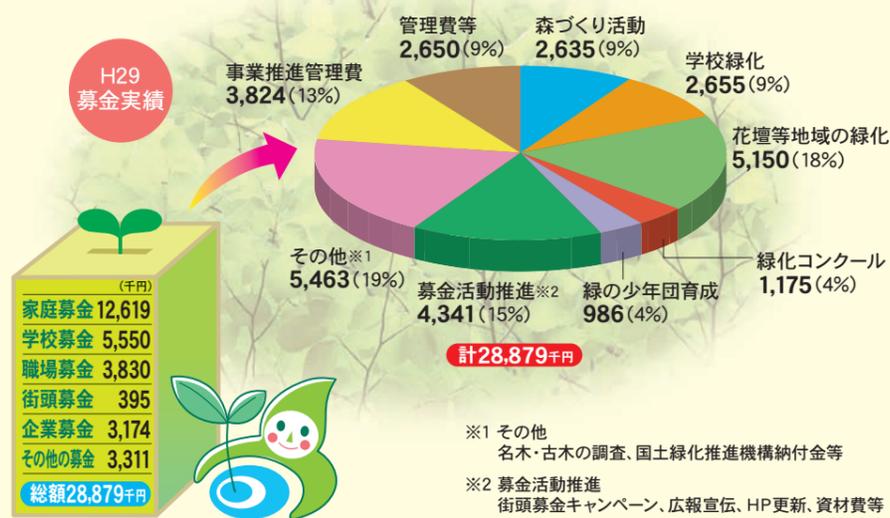
新規設置の自動販売機が対象です。設置、ご紹介の協力をお願いします。

目印はこのパネル!!

この自動販売機の収益金の一部は、「緑の募金」に寄付されます。



緑の募金は、こんなことに使われます。



H29 募金実績

募金種別	金額 (円)
家庭募金	12,619
学校募金	5,550
職場募金	3,830
街頭募金	395
企業募金	3,174
その他の募金	3,311
総額	28,879千円

もりのかぜ

Vol.10

編集・発行

平成30年9月10日(月)発行

公益社団法人 秋田県緑化推進委員会

〒010-0941 秋田市川尻町字大川尻170-169 森林環境会館内
TEL018-883-0815 FAX018-883-0816
[Eメール] akiryoku@estate.ocn.ne.jp
URL http://akiryoku.ec-net.jp/

制作

有限会社 バレア

〒010-0942 秋田市川尻大川町2-8
TEL018-896-7225 FAX018-883-0004

編集後記

♪夏が過ぎ風あざみ…青空に残された私の心は夏模様〜#こんな季節になりましたが、本当に今年は暑い夏でした。テレビ・ラジオは毎日のように熱中症対策への注意を喚起、時には「生命に危険を及ぼす暑さです」とも、小脇が子供の時は、最高気温30℃超で大騒ぎしたように記憶していますが、今では35℃超も珍しくありません。

夏の甲子園も大変でした。開会式では選手に適宜水分を補給するよう促し、大会中の観客席ではミストが散布されました。そして、100回目となる節目の大会での金足農業の大活躍!! 吉田投手の注目度もさることながら、公立の農業高校で部員は全員県内出身、地方大会から準決勝までメンバー交代無しということもあり、第1回大会の旧制秋田中学以来の秋田県勢の決勝進出には、本県ばかりでなくそれこそ日本中が半端なく熱くなった夏でした。(Y.I)

みんなが森林の応援団!! 緑の募金

への協力と森林づくりへの参加をおねがいします。
■緑の募金は、地域の環境緑化活動や森づくり活動への支援に使われます。



実施主体 / (公社) 秋田県緑化推進委員会
市町村・市町村緑化推進委員会

緑の募金でふせごう地球温暖化

TOPICS

佐藤清太郎氏(秋田市下浜)がみどりの文化賞を受賞



このたび、秋田森の会・風のハーモニー代表の佐藤清太郎氏が28回目となる「みどりの文化賞」の受賞者に選ばれ、去る5月12日に東京都千代田区のイノホールで開催された「みどりの感謝祭」の式典で顕彰されました。

「みどりの文化賞」は、平成2年に国土緑化推進機構が創設し、緑豊かな国土や森林文化の創造に功績のあつ

た個人や団体を表彰しています。これまでの受賞者には、環境保護活動家のC・W・ニコルさん、「森は海の恋人」の活動で知られる気仙沼の畠山重篤さんなどが名を連ねています。

佐藤氏は秋田県を代表する森林経営者の一人であり、指導林家として今も第一線で活躍しています。その一方で、森林・林業体験の場として所有山林の一部を「健康の森」と命名し、早くから解放してきました。中でも、園児が森の中で思いのまま遊ぶ「森の保育園」は、子どもたちの逞しさが育まれるとして、毎年多くの園児が一年を通してやって来ます。

今、「森のようちえん」というのが全

国的に注目され、各地に広がりつつあります。幼児期に自然の中で過ごすことで、日々目覚ましい発達をしている園児の心と体の成長に様々な刺激を与えることを狙ったものですが、佐藤氏の「森の保育園」は、まさにその草分け的存在として今回高く評価されたものです。



▼簡易テント作り

平成30年度秋田県緑の交流集会を開催しました!!

8月2日(木)~3日(金)の2日間、昨年に引き続き八峰町の「あきた白神体験センター」で開催した交流集会には、3団体26名(児童23名、引率3名)が参加、自然体験や共同生活を通して交流を図りながら、八峰町の豊かな自然を満喫しました。

初日は、入所式、バードコール作りのあと、森林科学館(愛称:ぶなっころん)見学と三十釜散策に出かけました。「八峰町白神ガイドの会」の皆さん

バードコール作り



三十釜散策

が案内してくれた三十釜散策では、変化に富んだ渓谷美を楽しみながら、世界自然遺産・白神山地の動植物の観察などを行いました。

体験センターに戻ったあとは班ごとに、ブルーシートや紐など身近にある材料を使った簡易テント作りに挑戦しました。センタースタッフのアドバイス

を受けながら見事にテントが立ち上がった時はみんなご満悦の表情でした。

2日目は、塩工場と漁協施設の見学を終えてから、白神こだま酵母を使った棒パン作りを行いました。キリタンポの串みたい棒に伸ばしたパン生地を巻き付けて、クルクル回しながら炭火で焼きましたが、焼きたての味は格別であちらこちらから「おいしい」の声が。八峰町の豊かな自然があったればこそこの2日間の活動は、水と緑を愛する心を育む格好の機会となりました。



平成30年の動き

- 3月26日(月) ●秋田市で「(公社)秋田県緑化推進委員会第47回通常総会」開催
- 4月28日(土) ●秋田駅前「緑の募金街頭キャンペーン」を開催
- 農林中央金庫秋田支店が、募金や緑化活動の支援グッズとして「花の種」寄贈
- 6月10日(日) ●福島県相馬市で第69回全国植樹祭
- 7月7日(土) ●美郷町大野台広場で、「2018あきた水と緑の森林祭」を開催
- 8月2日(木)~3日(金) ●八峰町のあきた白神体験センターで、「秋田県緑の交流集会」を開催
- 8月9日(木) ●森の名手・名人に本県から3名選定された大館市 吉原 重美氏(曲げわっぱ) 秋田市 長崎 敏氏(木彫り木工品) 横手市 中川原信一氏(あけび蔓細工)
- 8月18日(土) ●鹿角市道の駅おおゆで「ウッドファーストあきた」後援、つみ木ワークショップを開催
- 9月13日(木) ●秋田市河辺で「中通小学校林業体験学習」を開催
- 9月27日(木) ●男鹿市立船川第一小学校で学校環境緑化モデル事業完成式典
- 10月7日(日) ●秋田市ぼぼろーどで「ウッドファーストあきた」後援、つみ木ワークショップを開催
- 10月16日(火) ●秋田大学教育文化学部附属特別支援学校で学校環境緑化モデル事業完成式典
- 10月24日(水)~10月26日(金) ●県内3箇所「森の教室」を開催
- 11月18日(日) ●東京都武蔵野の森総合スポーツプラザで第42回全国育樹祭
- 11月30日(金) ●「緑の募金運営協議会」開催

平成30年度

ウッドファーストあきた木材利用ポイント事業実施中

県産材で自宅を新築すると 最大35万円相当ポイントもらえる!!

いいね、
県産材



県産材などを活用してポイント獲得!! 県産品・助成金と交換しよう!!

ウッドファーストあきた木材利用ポイント事業とは

県産材で自宅を建てたり、ペレットストーブ等を購入すると、ポイントが発行され、そのポイントを県産品や助成金に交換できる事業です。

県産材の構造材・下地材等を使用する	県産材の内装材を使用する	ペレットストーブ等や県産木製品を購入する
-------------------	--------------	----------------------

◆様々な秋田の県産品の中からお選びいただけます



※写真はイメージです

ポイント獲得

県産品・助成金との交換!!

木材利用ポイントの発行対象

ポイント発行対象:平成30年4月1日から平成31年1月31日までの期間に、自宅を新築又は購入、ペレットストーブ等の購入をする場合が対象です。(ポイント発行には条件がありますので、詳細はお問い合わせください。)

【申請期間】

平成30年6月1日(金)～平成31年2月8日(金)

【交換期間】

平成30年7月2日(月)～平成31年3月1日(金)

※ポイント発行数が予算枠に達した場合は、申請期間内でも受付を終了します。

詳細は県のウェブサイトに掲載しておりますのでご覧ください。

お問合せ

秋田県木材産業協同組合連合会
秋田県林業木材産業課(木材利用推進班)

TEL:018-837-8091
TEL:018-860-1915

秋田県公式Webサイト 美の国あきたネット <http://www.pref.akita.lg.jp/>
詳細はウェブサイトをご覧ください!!

ウッドファーストあきた 30 検索